

## 【実行委員後記】

ようやく『言語文化と日本語教育増刊特集号 2006 年版』を世に出せることになりました。これまでの苦勞を思うと胸に熱いものが込み上げてきます。

論文を投稿し、査読者の方にいただいたコメントに答えようと必死で考え、それをまとめていく、という過程は、私にとって初めてのことであり、非常に得難い体験でした。これによって、先行研究における結果を自分なりの視点で分析する目を養うことができたと感じています。これは、今後研究を続ける上での貴重な財産であると感じています。

いざ論文が完成してみると、また新たな問題が発生しました。著作権の問題です。引用したい図が掲載された書籍の発行元である出版社が他社の子会社になったため、著作権の行方が分からない状態だったのです。3 ヶ月ほどかかって現在その書籍を扱っている出版社を探し出し、何度もメールでやりとりした結果、ようやく引用許可を得ることができました。

編集作業に関しては、今年度は実行委員が一人ということもあり、不安で仕方ありませんでした。校正の作業も慣れないため、同じ事を何度も繰り返してしまうなど、非常に非効率的でした。今こうして発行に漕ぎ着けることができましたのは、編集委員の一人でもある向山陽子さんのご協力があったからこそです。また、佐々貴先生には、私の遅々とした論文執筆や校正作業を辛抱強く待っていただき、更に引用許諾に関しても大変お世話になりました。執筆者の方々にも大変ご迷惑をおかけしたことと思います。この場をお借りして、お世話になったすべての方々に心から感謝申し上げます。

(徳田 恵)

2006年11月

編集事務局実行委員